

ためこみ症における側頭葉および後頭葉内側領域の hypogyrrification

松尾, 陽

<https://hdl.handle.net/2324/7363675>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (4)



氏 名	松尾 陽
論 文 名	ためこみ症における側頭葉および後頭葉内側領域のhypogyrfication
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 神野 尚三 副 査 九州大学 教授 磯部 紀子 副 査 九州大学 教授 須藤 信行

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

ためこみ症についての先行研究では、神経発達上のリスク要因がためこみ症 (hoarding disorder: HD) の病態形成に関与している可能性が示唆されている。近年の脳機能画像解析では、島皮質および前帯状皮質を含むセイリエンスネットワークならびに前頭葉-辺縁系回路領域の障害がHDの病態に関与していることが報告されているが、これらの領域において、神経発達上のマーカーと考えられているgyrficationパターンの変化は不明である。本研究では、HD患者群と健常対照群 (HCs) の皮質gyrficationを調査し、定量的に比較することで、HD特有の形態学的変化を解明することを目的とした。解析では、FreeSurferソフトウェアで測定した局所脳回指数 (Local Gyrfication Index: LGI) を、26人のHD患者群と35人のHCsの間で比較した。さらに、HD患者群においてLGIの変化が認められた領域とためこみ症状の重症度との関連を調査した。その結果、HD患者群はHCsと比較して左紡錘状回、左舌状回、左海馬傍回、左鳥距溝のLGIが有意に低下していることが明らかになった。また、HD患者群の左舌状回では、LGIとためこみ症状の重症度との間に負の相関が認められた。これらの結果から、HDは側頭葉および後頭葉の内側領域におけるhypogyrficationを特徴とする神経発達異常との何らかの関連を有する可能性が示唆される。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。
よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士 (医学) の学位に値すると認める。